

# 健全な情報空間をめざして NHK財団の取り組み

»» NHK財団 社会貢献事業部  
(2026.03.15)



2023年4月 NHKグループの4つの一般財団法人が合併して  
「NHK財団」が発足しました。

NHKグループの「社会貢献事業」推進の中核を担い

公共メディアNHKの価値を放送以外の形で広く社会に還元します。

子法人の公益財団法人NHK交響楽団(N響)と一体となって

社会貢献事業を展開していきます。



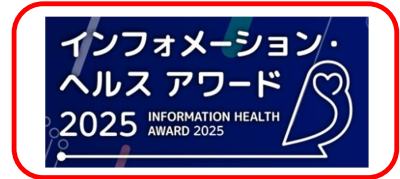
情報空間の健全性を確保することで、平和で豊かに暮らせる社会を実現し、民主主義の発展に寄与する



## 情報空間の健全性確保への貢献

「健全な民主主義の発達」のための基盤となる「情報空間の健全性」「情報リテラシーの向上」に資する事業に積極的に取り組んでいます。

(2023年スタート)



- ・熊本地震(2016)
- ・米国大統領選(2016)
- ・新型コロナ(2020)
- ・誹謗中傷による自死(2020)

偽・誤情報の拡散、パーソナライズ、誹謗中傷・炎上

食べ物  
身体を作る

情報  
思考や人格を  
形成する



NHK財団の社会貢献として、情報の「真偽」や「正誤」を示すことよりも自分や大切な人が受け取っている“情報の出どころ”やその“環境”に意識を向けるきっかけを作りたい



# (2023年) 情報的健康



溢れる情報の中で生きる私たちは 多様な情報をバランス良くうけとることができるでしょうか  
目の前にある情報は あなた自身が選んだものですか

(募集概要より)

情報空間の健全化に資することを目的に、「情報的健康(インフォメーション・ヘルス)」の概念に基づき、具体的なアイデアを広く募集し、優れた作品を表彰するとともに、社会実装を視野に入れた支援を行う事業を、2023年度より実施してきました。



## インフォメーション・ヘルスアワード (2023年～)

### 応募作品数



第1回  
2023

(応募65件)



第2回  
2024

(応募104件)



第3回  
2025

(応募246件)



# インフォメーション・ヘルスアワード (2023年～)

## 社会の出来事



### 第1回 2023

(応募65件)

ポスト・  
トゥルース

- ・生成AI元年
- ・迷惑動画拡散



### 第2回 2024

(応募104件)

- ・能登半島地震
- ・なりすまし広告
- ・パリ五輪
- ・兵庫県知事選



### 第3回 2025

(応募246件)

- ・第二次トランプ政権
- ・闇バイト
- ・巨大地震デマ
- ・参議院選
- ・排外主義デマ×自治体
- ・ディープフェイク(クマ)
- ・若年層のSNS規制

- ・ディープフェイク(砂丘)
- ・衆議院選
- ・他国からの情報操作
- ・ミラノ・コルティナ五輪
- ・スマホ使用時間

生成AIによる  
ハルシネーション



## インフォメーション・ヘルスアワード歴代のグランプリ受賞作品

2023

### ◆『心組成計』: ネット上の心の健康をチェック」(大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程2年 温 若寒)

ネット上での「たが」の外れ具合を、社会のルール/対人距離/関係の維持という視点から可視化し、「情報が心と関係性に与える影響」を自覚するためのツール。

➡(発信する)情報への免疫力

2024

### ◆アイデア部門「きっかけ:異なる視点との出会いをSNSで」(追手門学院大学 心理学部心理学科 人工知能・認知科学専攻 杉本幸大)

SNS上で、「自分とは異なる多様な意見に触れるための“きっかけ”」を提供する。人は「何を言われるか」より「誰が言っているか」に影響されやすい心理に注目。

### ◆社会実装部門「ブラウザ上で動作する情報リテラシー支援ツール」

(東京大学工学部システム創成学科 堀川祐生・三田地宏哉)

AIを活用し、事実と意見の区別、要約、一次情報の識別、背景情報の提示し、他視点の検索をサポートする実装型ツール。

➡情報の偏りを修正、  
摂取する力

2025

### ◆アイデア部門「ニュースの答え合わせ365」(会社員 古井菜月)

ニュースを時間軸で振り返り、検証するという発想で、即時反応を抑え、「あとから考え直す習慣」を育てる。

### ◆社会実装部門「Think Critical: 認知の罫を見抜くLLM-批判的思考を育む次世代リテラシーツール」

(株式会社TDAI Lab 代表取締役社長 福馬智生)

SNS投稿の感情的訴求や論理的誤謬を可視化し、「なぜそう思われたのか」を言語化し、自分の認知の癖に気づかせる。

➡情報への免疫力



# 第4回インフォメーション・ヘルスアワード

応募期間 2026年4月27日(月)~9月30日(水)

## アイデア部門 (一般)

🏆 グランプリ 30万円  
🥈 準グランプリ 10万円

対象:全年齢の個人、グループ

## アイデア部門 (指定テーマ)

🏆 グランプリ 学校などの教育活動で  
取り組みやすいよう、  
対象とテーマを設定

対象:2008年4月2日以降に  
生まれた方

応募要項はアワードサイトで公開予定

所定の応募フォーマットに沿って記入

学校・団体・企業向けの出前授業、講演



アワードサイト



2017年最高裁判決(放送法64条1項の合憲性について)

公共放送の役割について、  
「国民の『知る権利』を実質的に充足し、  
健全な民主主義の発達に寄与するもの」と位置づけている。



## 開発途上国の公共放送を支援

民主化を進めるウクライナやコソボの公共放送局への支援、表現の自由への取り組みを進める南スーダンの支援などを、国際協力機構(JICA)と連携して推進し、NHKグループの国際貢献を担う中核組織としての役割を果たしています。





## 自由な情報空間を未来へ JICA研修「民主国家におけるメディアの役割」から 2025.12.12 NHK財団(取材・文/NHK財団 国際事業本部 尾原徹)

NHK財団では2018年度以降、JICA・国際協力機構の委託を受けて開発途上国などのメディア関係者を対象とする研修、「民主国家におけるメディアの役割～情報へのアクセスと権力監視」を実施している。

2025年度はフィジー、ガボン、グレナダ、コソボ、モンゴル、セルビア、シエラレオネ、モルドバ、南スーダン、ウクライナの計10か国から14人のジャーナリストや情報当局関係者らを迎えてプログラムを実施した。(中略)

### フェイクニュースや偽・誤情報とどう向き合うかは各国で課題

NHK内外の講師陣による講義は多岐に渡ったが、常に話題に上ったのはネットメディアやSNSの隆盛、それに伴うフェイクニュースや偽・誤情報の蔓延に対してテレビやラジオなど「オールドメディア」がどう役割を果たすかという問題だった。例えば選挙報道であればSNS情報によって結果が大きく左右される事例、災害報道であればデマ情報で円滑な救助活動が妨げられる問題。特に**国境を越えた情報工作の問題**は、ロシアの情報戦にさらされるウクライナ、モルドバを始め多くの研修員の関心を集めた。グループ討議では、**自由で健全な情報空間をどう守るか**をテーマに真剣な議論が交わされた。(中略)

報道の自由をめぐる状況は国によってまちまちで取材や情報へのアクセスが容易でない国もある。そんな悩みを口にした研修員に講師の一人は、「他国のジャーナリストと連携することで道が開けることもある」とアドバイスした。今回の研修はまさにそのきっかけを提供できたのではないかと。研修員たちが「イチャリバ・チョーデー」の緩やかな絆を生かし世界各地で「自由な情報空間」の担い手となることを願っている。



## 氷点下のキーウ、ジャーナリストたちの今 ——ウクライナ公共放送支援の取り組み 2026.02.24 NHK財団(文・絵/NHK財団 国際事業本部 山本浩)

NHK財団は、2017年、旧NHKインターナショナルのころからウクライナ公共放送Suspilneの支援に取り組んでいます。今年1月、戦時下のキーウを訪れました。



公共放送Suspilneは2015年にソビエト時代の国営放送の組織体を統合再編して設立された。JICA(国際協力機構)が支援プロジェクトを立ち上げ、NHK財団がNHKの協力を得ながら10年にわたって**人材育成や組織づくり**など一大改革を支えてきた。設立当初は古臭いイメージがあつて人気がなかったそうだが、いまでは、圧倒的な信頼度を誇る公共メディアになっている。(中略)

「ウクライナにあつてロシアにないもの。それは**民主主義とユーモア**だ」と誰かが言った。「そうだ、この国ではコメディアンが大統領になれるんだ」。笑い声が上がった。「まだあるぞ。それは**表現の自由、真実を伝えるメディア**だ」。ロディオンさんの決め台詞ぜりふで宴うたげが締めくくられた。



## 情報空間の 健全性確保のために

公共メディアNHKグループの社会的使命のひとつ

“情報空間の健全化”への取り組みを、  
みなさまとともに進めていきます。



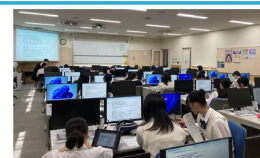
# 情報空間の未来と展望

»» NHK財団 社会貢献事業部  
(2026.03.15)



インフォメーション・ヘルスアワードを情報空間の健全化と情動的健康的な理念に基づく啓発活動の「座」として位置づけ、教育機関・企業・団体・地域との連携を通じ、全世代に向けたリテラシー教育を広げていく。

◆高校・中学などの教育活動で取り組みやすいよう、対象年齢とテーマを設定した新たな部門を設けます。



## アイデア部門 (指定テーマ)



グランプリ

学校などの教育活動で  
取り組みやすいよう、  
対象とテーマを設定



準グランプリ

対象: 2008年4月2日以降に  
生まれた方

## スマホ時代の「情報」との上手なつきあい方

- ◆ 誹謗中傷・炎上
  - ◆ スマホ依存
  - ◆ ネットを介した外部とのつながり
- ➔ 詳細は4月末、公式サイトにて



◆学校や団体、企業向けに、出前授業や講演の実施を各地で行います。

兵庫



選択科目「情報デザイン」の授業

愛媛



ワークショップで“気づき”を共有

神奈川



大学1年生「現代国内情勢」の授業

◆シニア世代や子どもたちの親世代にも、情報リテラシーが十分に浸透していない層に向けた啓発活動の機会を広げます。



横浜市内の高齢者向けコミュニティカフェで実施(2025.12)

シニア世代はテレビや新聞を主な情報源としつつも、ネットやSNSの情報環境には不慣れな傾向があり、偽・誤情報への耐性が低いとされている。一方で、近年はスマートフォンやSNSの利用率も高まっており、**社会の意思決定に大きな影響を持つ層として、健全な情報判断力へのサポートが大切。**



→子どもたちの親世代の課題

(こども家庭庁 2026.2.26)

小中高生の平日の1日あたりのネット利用時間は約5時間27分。前年度から25分長くなり、調査開始以来最長となった。目的別の利用時間では「趣味・娯楽」が3時間1分で最長。

「勉強・学習・知育」は1時間6分。

→ 第3回アワードの応募作品でも“SNS依存”“スマホの使い過ぎ”に関するアイデアが多数

2025.10.1「豊明市スマートフォン等の適正使用の推進に関する条例」施行

条例は、スマートフォン等の使用について子どもだけでなく、保護者も含めた家庭でのルールを決めるよう促す、としています。

→ スマホの“奥”にある情報流通の仕組みや構造に目を向け、一人ひとりに合った情報環境を整えていくことが大切。(アルゴリズムによる外見・自己評価への影響、誹謗中傷・有害コンテンツへの接触や被害・加害のリスク、スマホ依存による睡眠不足や学力の低下)



# インフォメーション・ヘルスアワードを 情報空間の「場」として活用し、情報的健康の取り組みを紹介

「シリーズ インフォメーション・ヘルスを考える」～#29 まで配信中

**ステラnet** NHK財団

新着 ランキング NHK財団 大河 朝ドラ 深夜便 コラム レビュー インタビュー トピック

ヤフコメの健全化と“情報的健康”を目指す自主的な取り組みを紹介

LINEヤフコメ株式会社 YafuCo.ニュース部門 シニアストラット&ソフトウェアマネージャーの今子さゆりさん

インフォメーション・ヘルスアワード 選考委員 LINEヤフー・今子さゆりさんインタビュー — “情報的健康”とヤフコメの進化

シリーズ インフォメーション・ヘルスを考える #24

2025.10.03 NHK財団

社会貢献事業 インタビュー インフォメーション・ヘルス

**ステラnet** NHK財団

新着 ランキング NHK財団 大河 朝ドラ 深夜便 コラム レビュー インタビュー トピック

偏った情報による判断に基づく消費行動が被害につながりやすくなる

AI時代の消費者力とは？ インフォメーション・ヘルスアワード選考委員 消費生活の専門家 坂倉忠夫さん

シリーズ インフォメーション・ヘルスを考える #28

2024.01.26 NHK財団

社会貢献事業 インタビュー インフォメーション・ヘルス



**ステラnet** NHK財団

新着 ランキング NHK財団 大河 朝ドラ 深夜便 コラム レビュー インタビュー トピック

情報摂取において主体性を取り戻す

山本龍彦教授（慶応義塾大学・憲法学）

情報空間において「個人の尊重」は守られるのか 慶應義塾大学教授（憲法学）山本龍彦さんインタビュー

シリーズ インフォメーション・ヘルスを考える #25

2025.10.27 NHK財団

社会貢献事業 インタビュー インフォメーション・ヘルス

**ステラnet** NHK財団

新着 ランキング NHK財団 大河 朝ドラ 深夜便 コラム レビュー インタビュー トピック

新聞の原点に立ち返り読者の「知りたい」に答えたい

第2回 インフォメーション・ヘルスアワード

西日本新聞社編集局報道センター総合デスク 坂本信博さん

「自分で確かめてみよう」という意識が社会のインフォメーション・ヘルスを向上させる 西日本新聞社・坂本信博さんインタビュー

シリーズ インフォメーション・ヘルスを考える #18

2025.04.23 NHK財団

社会貢献事業 インタビュー インフォメーション・ヘルス

本日のフォーラム  
レポート掲載予定！！



インフォメーション・ヘルスアワードを通して

さまざまなステークホルダーと連携し

「**情報的健康**」の輪を社会に広げることで **情報空間の健全性を確保し**

平和で豊かに暮らせる社会の実現と 民主主義の発展に寄与します

公共メディアNHKの社会貢献事業を担う

NHK財団の役割として みなさまと進めていきます



ご清聴ありがとうございました

